

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.75



撮影・動画がトラブルの火種に！ 求められる判断基準とは

NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

6歳から25歳ぐらいをZ世代と呼ぶようだが、この世代が写真についての判別がつかない世代のようだ。SNSに投稿される画像のトラブルはおおよそZ世代の投稿画像が目立つ。トラブルに見舞われるかどうかは世代ごとの写真やカメラとの関わり方が起因しているように思う。

X世代は（1970年代まで）カメラで写真を撮ってきた。写真を撮るにもカメラという専用の機械を入手する必要がある上、現像という手間が必要で何より写真を撮ることに費用が発生していた。身構えて撮影をしたと思うし、撮影した画像に口スがないよう、慎重に構図を選んでいったように思う。

Y世代は（1990年代まで）幾分手軽に撮影できる機材も増え、何よりプリクラが普及し手軽にシールにして手帳に貼っていた。いずれの世代も写した写真をアルバムにしたり、シールの手帳を作り家族や友達に見せたりして、評価してもらっていた世代だ。「かわいいね」「キレイな景色！」と褒めてもらうことで「いい写真」と「悪い写真」の違いを学ぶことができた。だが、Z世代はスマホ世代

で手軽に写真が撮れる反面、写した写真で現像などしないこともあり、家族にも見せたことがないという。中高生にスマホで撮影した写真をおばあちゃんに見てもらったことがあるか聞いてみるが、ほとんどの写真を友達以外には見せていない。同じ基準で判断する友達としか共有していないのだから、良いか悪いかなどの基準が曖昧なままなのだ。

SNS上での問題投稿と呼ばれる迷惑行為の画像がニュースになり、逮捕や損害賠償の対象となっているが、報道されていない事例は山ほどある。高校でのネットトラブルの大半は画像のトラブルだ。許可なく撮影したトラブルや、撮影した画像に加工する「コラ画像」での誹謗中傷、位置情報をつけたままネットに上げ、ストーカー被害となるものや、LINEなどのプロフィール画像から検索され、個人が特定されるものなど、闇バイトへの声掛け事例もプロフィールや写真から、より個人を特定した誘い込みや脅しのターゲットとなっている。

見せていい写真、ネットに上げていい写真、その基準すら持っていない。家族に見せてい

る子どもは褒められる写真と、ダメな写真が体験で学べているが、友達としか共有していない子どもは自分たちの判断基準でしかない。

学校のタブレットで写真を撮影してみんなに披露する機会でもあれば、写真についてみんなで考える時間も取れると思うが、多くの学校では「写真」はそれほど重要視されていないのが現状だ。

観光地での撮影トラブルもよく耳にする。スマホで撮影していると怒鳴られたーと中学生。実は「当たり前」もいて、撮影しているのを見ると、あえて映り込むように前を通り、言いがかりを付けるのだ。「俺の写った写真を見せろ」「消せ」「後日投稿を見つけたら連絡するからLINEを交換しろ」と脅してくる。修学旅行中に学校に内緒で持ち込んでいる場合もあり、先生に相談もできず、後日相手からのLINEに怯えている。

TikTokのように動画を撮影する場合も、スマホを置いて数メートル離れて撮影していると、後ろを通る人物からクレームがくる。厄介な相手ならスマホを取り上げられたり、相手に連れ去られたりする場合もある。街中にはネットに顔を出せない人物も歩いているのだから、撮影は相当の配慮がいるのだが、経験がない子ども達は平気で撮影する。

各家庭にはカメラ付きのスマホやタブレット、ゲーム機……何種類もの端末がある時代なのに、撮影や写真については大人の常識のまま、子どもには指導をしていないのが現状だ。

まさかそんな写真をうちの子は投稿しない、と親は思いのたけだが、現実には自撮りの裸もたくさん投稿されているのだ。